長洲町立長洲小学校　校長便り　№30

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和4年9月9日(金)

台風一過

5日から6日にかけての台風11号、ご家庭では影響はありませんでしたでしょうか。拙宅、未明から明け方にかけて風が強まり、あまり眠れませんでした。幸い、外回りに大きな被害がなくホッと胸を撫で下ろしていますが、木の葉や枝が散っていて地域の様子が一変していました。「台風一過」、今日は良い天気、秋を感じさせます。空を見上げながら、「台風はもう来ませんように…」と祈るばかりです。7日（水）には、元気な笑顔が戻ってきたことが嬉しい限りです。

何をするにも良い季節となっていきますが、台風のことを考えると、怖い季節がもう少し続くのかなとも思います。しかし今後は各学年の見学旅行や6年生は修学旅行と、子ども達が楽しみにしている行事が連続します。秋は大きな台風が来る季節でもありますが、せめて行事の時は来ないで欲しいですね。9月半ば、まだまだ日中は暑い日々ですが、朝晩は秋を感じる場面も多くなるでしょう。いつ来るか分からない台風を心配するより、何か楽しいことを思い浮かべて充実した毎日を過ごしたいものです。

併せて、コロナウイルス感染はまだまだ目の前にある危機といえます。本校でも1年生が5・6・7日の3日間学年閉鎖となり、改めて感染力の強さを感じたところです。今後も子供達の活動を充実させるために、これまで通り感染拡大防止にご協力をお願い致します。

高学年へのメッセージ「思春期の入り口」

高学年の子ども達の心や体はどのように変化しているのでしょう。この時期、体の変化に伴って心にも微妙な変化が生じてきます。いわゆる思春期です。目標が明確であれば素晴らしい効果をあげる時期でもありますが、欲や本能だけで行動すると悪い結果を生む時期でもあります。

思春期の典型的な行動パターンとして、まず親とは違った価値観を身に付けようとするため、大人への「反抗的態度」が出現します。また、見た目が気になり始めます。周りの友達にどう見られているかは、とても気になることのようです。髪型も同じです。整髪料を使ったり染めたりする子もいますね。また、周囲に認められようとして、自分のキャパシティ以上に頑張り、そのストレスに耐えきれず、不安定になることもあります。

私にも娘がいてそういう時期がありました。高校生だった娘にこう言いました。「その時その時に似合う姿があるのに、何でそんなに無理して化粧すんの？　そんなに自分に自信がないの？」娘は黙っていました。思春期の背伸びは理解できますが、いくら外見を繕っても魅力とはなりません。言動や雰囲気が魅力となっていくのです。「醸し出すものが魅力であると思います。

さて、子ども達がやることは幼いのですが、真剣です。でも、そういったことが自分の将来にどのような影響が出てくるのかを知っておかなければなりません。中学校になって、反抗的な態度ばかりとったり、見た目に気を遣い過ぎたり、ルールが守れなかったりすれば、その後の人生に影響が出ます。ご家庭の団欒の話題にしてみてはいかがでしょう？　この時期は今しかありません。大切にしたいものです。

シリーズ「自分を語る」#30

－ＶＨ（中心静脈点滴）の処置後すぐ、看護師さんが点滴を持って来られました。高カロリー輸液云々と書かれたどでかいビニールパックでした。当時の普通の点滴はガラスの瓶に入っている物が多く、ビニールパックでしかもあまりに大きいものだったので、家族もびっくりしていました。何も食べないで先ずは2週間…、想像もつかない入院生活が始まったのです。24時間点滴なのでいつも輸液はそばにあります。ちょっと想像してみてくださいね。点滴をぶら下げる柱があって、足元には車輪がついているもの、私はそれをどこに行くにも連れて行くのです。面会でも、テレビを見るにも、売店に行くにも、トイレに行くにも全てそれをコロコロとひっぱって行くのです。お蔭で、看護師さんからはトイレに行っている時でさえ見つかってしまい、病棟の廊下で「澤田さんはここにおらすよ～。」と大声で叫ぶ始末…。私にはプライバシーも無い時間でした。

それよりも辛かったのは、物が食べられないということです。とにかく、胃や腸の中は空っぽですから、空腹感はあります。病室は6人部屋で、当然のことながら他の患者さんは食事を摂られる訳です。お見舞いの方々も私が食べられないのを知っているので、持ってきてくださるのは本が多かったですね。でも、周りの患者さんは違います。お見舞いの品物が殆ど食べ物ですから、食べられない私には酷でした。お裾分けで頂いても、食べることができません。頂いた物は全て家族が持って帰りました。私は、朝食時は別の点滴が追加されるため病室にいましたが、昼食、夕食時は、居たたまれなくなって1階受付にあるテレビを見に行ったり、屋上に行ったり、談話室で本を読んだりしていました。当時の手帳には面白い記述が残されています。それは食べたい物一覧です。そこに書いてあるものが自分でも笑ってしまいます。かなりリアルな記述で、その一例を紹介しますと、「香梅のクリームパフ」「焼きそばUFO」「出前一丁」「梅干し」「カール（スナック菓子）」…。実はこれ、同室の患者さんやお見舞いの方々が食べていた物ばかりなんです。あんなに人が食べるものを美味しそうに且つ羨ましそうに見たのは、あの時以外ないでしょう。口にできるのは水とお茶、食事がスタートして3日目くらいから残渣の無い１００％果汁のリンゴジュースが1日に1回あったように思います。このリンゴジュースが最大のご馳走でした。だから、ゆっくり味わって飲みました。少し口に含んで暫く味を楽しみます。そして少しずつ喉を通すのです。子どもみたいなことをやっていた訳ですね。

食べ物が当たり前に食べられるということは、実は有難いことなのだと痛感した経験でした。今でも、ご飯粒を残す事は私の心の中ではあり得ないことで、子ども達が給食を食べる時の姿を見ているたまに悲しくなることがあります。「これは嫌い！」と大声で叫ぶ子ども、給食センターの方々が聞いたら悲しみます。保護者の皆様、子どもの食習慣は大人の習慣が影響しますので、見直しをお願い致します。

さて、痛みを感じることなく5日ほど過ぎた頃、当時勤務していた龍田小学校の校長先生と教頭先生がお見舞いにいらっしゃいました。神妙な面持ちです。私は何となく状況を悟りました。

（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）